

第1回

サロン・シンフォニック・コンサート



表1

表4



バイオリニスト 昭和16年より多年NHK東管にて活躍 この間多数の子弟にバイオリンの指導を続け 特に幼児教育に才腕を発揮 かわら各種合奏団の育成に当る。

御挨拶

松橋英太郎

この度初めてシンフォニックコンサートを公開するに当り、感じますのはよくここ迄頑張ってきたものと云う事です。この困難なオーケストラの演奏、運営、等並大抵のものではありませんが、団員一同の疲れを知らないスーパーマン的努力が今日の演奏会を実現させたものと思っております。

このところ室内楽合奏グループの活躍がめだっていますが、アマチュアで、この規模のクラシックアンサンブルとしてはユニークな存在だと自負するところです。

もとよりアマチュアの集りで演奏技術は充分ではありませんが、若さとチームワークには自信がありますので、今後も益々腕を磨いて行き、充実した演奏をしたいと考えて居ります、皆様の暖かい御支援を切にお願い申し上げます。

第1回 サロン・シンフォニックコンサート

指揮：松橋英太郎（第一部）
山本正一（第二部）

演奏：東京サロン・オーケストラ

'73/7・1(日) P.M 2:00

お茶の水 日仏会館ホール

曲目

(第一部)

1. 詩人と農夫……ズッペ

2. 交響曲第8番ロ短調<未完成>……シューベルト

第一楽章 アレグロ モデラート

第二楽章 アンダンテ コン モト

休憩

(第二部)

3. 組曲 イタリアの印象……シャルパンティエ

a. セレナード

b. 泉のほとり

c. ラバに乗って

d. 山々の峰

e. ナポリ

曲 目 紹 介

オペレッタ「詩人と農夫」序曲

カール・エルマーの戯曲上演のために筆をとったものですが、その戯曲の内容や、作曲の経緯等については全く不明であり、ただ、スッペの若い頃の作品と云うことしか解っていません。この曲は、

交響曲第8番 短調「未完成」

この曲は、世界中何処の国に於ても、最も美しく最もポピュラーな交響曲の1つとして親しまれている名曲です。1822年10月22日に着手されたこの交響曲が未完成と呼ばれるのには、2つの理由があります。1つは、従来の交響曲が4つの楽章で完成される事が普通の型となっているのと、もう1つは、作曲者の自筆の譜面には、第3楽章スケルツォの初め9小節がオーケストレーションされ、後の120小節余りはピアノ・スケッチのままになっている事から、シューベルトは4楽章の交響曲を書くつもりであったが、遂にそれを完成する事が出来なかったからです。

何故この交響曲が完成されなかったかについて様々な推測が行な

組曲「イタリアの印象」

作曲者のギュスターヴ・シャルパンティエは、パリ音楽院でマスナーに学び、27才の時、ローマ大賞を獲得しました。そして、ローマ遊学中に義務作品として、交響詩「ナポリ」を作曲しパリに送りました。これが審査員たちのお気に召し、特にサン・サーンスは激賞したと言われています。

当時のこの種の作品の多くがそうであるように、劇中の主な旋律を巧みに接続し、行進曲やワルツをもり込んだ変化のある内容を持っています。初めに金管群の序奏が有り、続いて出るセロ独奏による甘美な旋律が印象的です。

われていますが、この美しい第1、第2楽章にマッチした高度な美の総体を作り上げるのに充分な楽想が湧き出て来なかったのです。

しかし、現在では、この2つの楽章で完全な美の総体を形成している事を認めない人や、この交響曲にそれ以上のものを求める人は誰もいない。新鮮で独創的な音色の豊かさ、湧き出する泉の様な流麗な旋律、洗練された様式の美しさ、いずれの点から見ても、未完成と云えども、完成された作品と云う事が出来るでしょう。

この曲は、着手から43年、作曲者の死後37年経った1865年12月17日、ウィーンの音楽協会定期演奏会でJ・ヘルベックによって、初演され、非常に好評を博しました。

そこでシャルパンティエは、この交響詩「ナポリ」を更に充実した作品にすべく、この曲を終曲とする、全5曲からなる組曲を計画し、それから間もなく、「セレナード」、「泉のほとり」、「ラバに乗って」、「山々の峰」などを書き、それにローマ遊学の記念にふさわしい「イタリアの印象」と云う題をつけました。初演は、1891年(31才)、コンセール・コロンヌの演奏会で行なわれ、成功をおさめました。

〈セレナード〉

月明りにベスピオスが海の上に浮かび、地中海からの快い微風が肌をくすぐる。庭に咲き乱れる白いオリーブの花から、甘い香りが流れ漂う。窓に映る恋人の影に向かって、夢多い青年があふれる想

〈泉のほとり〉

緑の野辺に色とりどりの花が春風に揺れている。暖い陽光の下、雪解け水の流れる谷間の清流に、肌もあらわな村の娘たちが水を汲

〈ラバに乗って〉

夕暮れの道、赤く染まった西の空に一番星が輝く。一台の馬車が鈴の音と共に軽快に近付いて来る。馬方が歌い、荷台に乗った娘たちがそれに合わせて歌う。夕暮れの田園のしじまに馬方と娘たちの歌、それにヒズメの音と鈴の音だけがこだまする。時折り、掃りを

〈山々の峰〉

輝く太陽が、広大な紺碧の海原に、眼下に広がる真白のソレントの町々に、そして、海の碧と町の白が重なる浜辺にふりそそぐ。町

〈ナポリ〉

歓楽の町ナポリの気分を心ゆくまであらわした音楽です。この曲には、イタリアの民族舞曲のタランテラと、カンツォーネの旋律とがたくみに使われています。先づ、思わせぶりの導入があってから、楽天的なタランテラに移り、続いて単純なカンツォーネの旋律があ

いをギターに乗せて歌っている。あたかもそのような情景を思い浮かばせずにはおれないような曲です。主なる主題は2つあり、チェロが奏でる熱っぽい主題と、リズムが明確で起伏の大きな、流れるような主題がそれです。

みに来る。流れに足を浸し、若草に横たわり春を満喫するかの様にはしゃいでいる。小高い丘からは、羊を連れた牧童の角笛や歌が、万年雪を頂いた山々にこだまする。

急ぐ小鳥の鳴き声が聞える。そして、あたりが夕のとばりにつく頃空には満天の星が。

この曲の聞きどころは、チェロが奏でる情熱的で美しい旋律と、カンフォーネを思わせる。フルートのゆっくりとした甘美な旋律でありましょう。

の中で、ひとときわ高く、そして白く輝く教会から鐘の音が流れる。その音に乗って小鳥たちの陽気なさえずりが聞える。明るい太陽と、雄大な美景に旅人は我を忘れて酔いしれる。

らわれます。民衆がタランテラに熱狂しているところへ、こんどは楽隊が加わって行進曲を演奏するので、ますますにぎやかになります。と突然、あたりは急に静まり、若者たちの愛の語らいのような素朴なカンツォーネが聞えます。そして、曲は再び熱狂的に発展し、この組曲を通じて最も華やかなクライマックスを築きます。

(緒方)

シンフォニック コンサートに寄せて

山本正一さんに会ったのは、まだ2年余り前のことなのですが氏の音楽に対する熱意と素養には驚意と敬意の念が増々募るばかりなのです。楽譜の管理や楽器の心配までしながら全員サラリーマンの私達メンバーをまとめ上げていく事がどれ程大変か今日来ていただいた皆様方には、お解り戴だけののではないかと思います。この1・2年で長い間の懸案だったメンバーの増強、ユニフォームの準備等が出来、待望のコンサート開催を実現出来ることとなりました。これまでの私達の活動は年1・2度の慰問演奏旅行、コンクール出場、他メンバーの多くが勤務する共同印刷機での演奏会という地味なものだっただけに、今日のコンサートに寄せる期待は大きなものがあるのです。パンフレットからプログラムに至るまですべてメンバー手製になるものなのです。

音楽はお金がかかるとはよく言われることですが、このような私達の行動も又音楽のひとつの行き方と信じています。モーツァルトも皆様の前では身近な姿で親しみをもって語りかけて来るのです。

最初のこととて御満足いただけるかどうか心配ですが、今後は皆様の御支援でより楽しい定期演奏会にしていきたいと思ひます。

フルート 伊藤克夫

演奏会によせて

当オーケストラは昭和30年、数名の愛好家によりサロン・アンサンブルという名でうぶ声をあげて以来18年余、その間の演奏活動も多種多様におたり、またレパートリーも他の楽団ではみられないような広さを持ち、現在のアマチュアの中にあつては特異な存在となっている。

私自身は入団してから8年余りであるが今ではとうとう自他とも認める音キチとなつてしまった。もちろん他のメンバーもそうであり、多少ならずともキ印であることは世間一般の人から聞けば明白である。それだけにメンバー同志の心のふれ合いは密で和気あいあいといった気風が良く感じとれるし、18年余も続いたひとつのゆえんである。

またここでひとつ言っておきたいことは、現在のオーケストラを育てあげたのはメンバー全員の協力はもちろんであるが、発足当時の諸先輩の努力たるやそんじょそこらの生やさしいものではなく、血のにじみ出るようなものであつたということである。私自身もおかげでキ印に育ててもらつたわけであるが、今回の演奏会を期に先輩諸氏に感謝するとともに、今までの苦勞をねぎらう意味で、もっと張り切りたいと思う。もちろん他のメンバーもそう思つていることはまちがいないのである。

文がメチャクチャになつてしまつたが、要するに第1回目の定期演奏会を行なえるようになったことがメチャクチャにうれしいのである。

オーボエ 須藤 篤

東京サロン・オーケストラ

Conductor 松橋 英太郎
 Concert master 山本 正一
 Violin 仲 矢 昭 満
 戸 上 正 信
 阿 部 賢 次
 佐 川 登 紀
 奥 田 洋 子
 須 長 忠 雄
 島 田 弘 子
 柴 田 美 保
 落 合 誠 誠
 山 本 多 喜 子
 山 本 富 士 子
 股 野 久 子
 白 石 節 子
 福 田 昭 夫
 柴 田 勝 友
 中 田 光 香
 樋 渡 英 伍
 横 山 せ つ 子
 吉 野 昭 三

Viola

Violon Cello 山 本 正 敏
 岩 谷 和 春
 緒 方 伸 一 郎
 為 貝 豊 守
 Double-Bass 小 沢 昭 八
 原 田 昭 弘
 齊 藤 正 弘
 横 田 輝 雄
 Piccolo 横 田 輝 雄
 Flute 伊 藤 克 夫
 大 久 保 加 寿 江
 Oboe 須 藤 篤 篤
 Clarinet 芳 賀 博 行
 倉 沢 由 紀 子
 新 門 涼 夫
 吉 川 虎 夫
 Alto Saxophone 佐 藤 耕 介
 Bassoon 横 山 英 雄
 松 橋 隆 夫
 松 本 成 正

Horn 齊 藤 好 司
 児 玉 莊 太 郎
 高 橋 連 連
 Trumpet 瀬 戸 山 雅 昭
 片 野 勝 也
 榎 本 幸 雄
 Trombone 徳 永 満 春
 山 崎 達 三
 五 反 幹 夫
 Percussion 野 村 一 郎
 佐 川 勝 一
 岩 切 照 雄
 菊 池 定 一
 清 水 孝 子
 田 村 邦 光

Piano

東京サロン・オーケストラについてのお問合せは 北区豊島4-2-4 前田方(〒114) 高橋 連まで

弦楽器しか置いてない店

いつも楽器を調整する技術者のいる店



手工品の味をフルに生かした

ハウスマン・チェロ

ヨーロッパの伝統を伝える各国マイスター作品

コントラバス

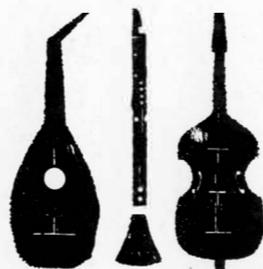
新作・オールド各種

チャキ弦楽器

〒112 東京都文京区小石川2丁目1番11号
 TEL. (811) 2084・(814) 0974
 地下鉄後楽園下車左1分

日本信販加盟店

弦楽器の修理・調整は業界に信用
ある当店技術部におまかせ下さい



弦楽器 管楽器
 の御相談は在庫豊富
 信用ある技研の



Shimokura's musical instrument

株式会社 下倉 楽器

お茶の水駅前

東京都千代田区神田駿河台2-2 Tel 東京(293)7706(代)-9